

本学における介護福祉教育16年の歩み — 社会情勢の変化と閉校に至る関連要因を踏まえて —

The 16-year History of Care and Welfare Education in Hokuriku Gakuin University — Examining the Circumstances of the Closing Down of the School and Social Changes in Japan —

由 田 美津子^{*1}、真 砂 良 則^{*2}

要旨

北陸学院130年の歴史の中で、1999年本学に人間福祉学科が新設され、介護福祉教育に着手した。当初、社会の福祉への関心の高まりと建学の精神に叶う意義ある学科として開設され、第9期生まで2年制の養成課程として存続した。2008年大学化に伴い4年制の介護福祉教育に移行したが、社会情勢・国の施策変更等の影響を受け入学者が激減し、2015年4期生の卒業をもって、介護福祉教育の終焉を迎える。この16年の歩みを振り返り、若干の考察を加えここにまとめる。

キーワード：介護福祉教育 (Care and Welfare Education) /
入学者の減少 (Decrease in Enrollment) /
社会情勢の変化 (Social Changes in Japan)

I. はじめに

北陸学院130年の歴史の中で1951年、学校法人北陸学院が設立され、65年の歳月が流れている。楠本学院長作成の北陸学院の流れ（表1）によれば、1950年、保育短期大学の開設、1953年、北陸栄養専門学院開設、1963年、北陸学院短期大学となり、保育科、栄養科、1964年英語科、1968年教養科が新設されている。そこに1999年人間福祉学科（入学定員80）が新設され、5学科制となり、介護福祉教育の開始となる。当時、県内には1990年開設の金沢福祉専門学校（40×2年）と1998年開設の金城短期大学専攻科（保育士＋1年）があるのみで、社会のニーズと福祉への関心の高まりから、短大の介護福祉養成課程新設が待たれる状況にあった。学生募集は設置認可が

下りる12月末までできない状況の中で1期生は、開学を待っていた優秀な学生70名を確保することができた。2期生は89名、3期生までは定員近い入学生を迎え順調に運営できていたが、2000年金城大学社会福祉学部（80×4年）の開設もあり、高卒人口の減少の中、福祉を目指す数少ない学生を各校が分け合う形で推移し、学生確保の様々な取組を行ったが定員割れの状況が続いた。2009年3月卒業の9期生を最後に、短期大学での養成を終了、この間、合計468名の介護福祉士を社会に送り出している。2008年4月、北陸学院大学が開設となり、介護福祉教育は社会福祉学科の人間福祉コース（定員40）に移行した。しかし、入学生の激減により、2012年4月、社会福祉学科の募集停止が決まり、社会学科に改組となった。2015年3月、4期生の卒業をもって本課程を閉じることとなるが、短期大学の人間福祉学科（1999～2009）、大学の人間総合学部社会福祉学科人間福祉コース（2008～2015）に於ける介護福祉教育16年の歩みを振り返り、担当学長の時代に分け、各年度の卒業生の動向や特記事項を

^{*1} YOSHIDA, Mitsuko

北陸学院大学 人間総合学部 社会福祉学科
介護概論、介護実習指導

^{*2} MASAGO, Yoshinori

北陸学院大学 人間総合学部 社会福祉学科
現代社会と福祉、高齢者福祉論

(表2)に記すとともに、社会情勢や国の政策変更にも影響され閉校に至る本学の介護福祉教育について若干の考察を含め述べてみたい。なお、文中の教職員並びに卒業生は在学時氏名を記載すると共に敬称を省略させて頂いたことをお断り致します。

Ⅱ. 大隅恵子学長時代(1998～2004)

1. 開学までの諸準備及び開学時の状況

(1) 人間福祉学科設立準備室の設置

1997年、人間福祉学科設立準備室が設置され、同年9月30日文部省、厚生省へ人間福祉学科設置認可申請書を提出した。当時、保育科長であった千葉茂明が中心になり、この学科開設構想の実現に向けて意欲的に進められた。準備室には、数澤淑子と佐藤政俊が配置され、膨大な申請書類の作成を担当された。1998年9月、由田美津子、大塚由木が参加し、実習施設との調整、介護実習・学内演習の進め方等について協議・準備を行った。同年10月厚生省の実地調査を受ける。

(2) 人間福祉学科設置の理由

学科新設申請時の設置目的として下記のとおり記されている。

「急速に進展する高齢化社会は、多様な福祉ニーズを生み出し、更には地域に密着した質の高いマンパワーの養成を急務としている。本学は、このような社会の要請に応えるべく、介護福祉士養成を主とするが、本学の建学の精神であるキリスト教の人間観を土台に『知識』『技術』『心』を一つにして実践できる福祉教育を目指し、人を愛し、人の尊厳と人権を遵守することのできる福祉人材の育成を図る。」

(3) 人間福祉学科棟の竣工

1999年2月9日人間福祉学科の教育活動の拠点となる人間福祉学科棟が竣工し、感謝礼拝及び記念式典が番匠鐵雄記念礼拝堂にて行われた。新設の学科棟は、鉄筋コンクリート3階建、1階には介護実習室や入浴実習室、実習物品室、更衣室・シャワー室、2階には被服実習室、研究室7室、3階には演習室、実習準備室、研究室5室がそれぞれ配置されている。

(4) 人間福祉学科設置の認可

1999年3月1日文部省及び厚生省より介護福祉士養成施設の指定を受ける。入学定員80名、総定員160名、開始時期1999年4月1日、取得資格は、介護福祉士、社会福祉主事任用資格、レクリエーションインストラクターとなっている。

(5) 初代人間福祉学科長に千葉茂明教授が就任

1999年4月開始の人間福祉学科教職員体制は、以下のとおりである。

学科長・教授に千葉茂明、教授は内藤暁(宗教主事兼任)中田久雄、助教授に国光登志子、富岡和久、由田美津子、講師に真砂良則、義本純子、助手には表志津子、大塚由木、実験実習助手として瀬戸佳子、相川美穂が就任した。



人間福祉学科棟の竣工

(6) 人間福祉学科開学記念講演会開催

1999年4月20日、番匠鐵雄記念礼拝堂において、日本社会事業大学教授、大橋謙策氏による「21世紀社会福祉の創造と地域福祉の進め方」と題した講演会が行われた。以後、人間福祉学科及び大学の社会福祉学科に於いては、(表3)に示すとおり、毎年特別公開セミナーが開催され福祉関係者及び一般の方に広く公開し、好評を得ている。

(7) 1999年4月5日、人間福祉学科の保護者会である「ぶどうの会」が発足し、学科学生の教育・研究活動を後援するとともに、大学と家庭との連携を緊密にすることを目的に組織された。

(8) 実習施設の依頼状況

本学の介護実習は、介護実習Ⅰ(12日)介護実習Ⅱ(12日)介護実習Ⅲ(18日)介護実習Ⅳ(18日)の4回に分け、計60日行われる。介護福祉教育において重要な役割を果たす実習を依頼

表1 《北陸学院の流れ 2014年5月楠本作成》

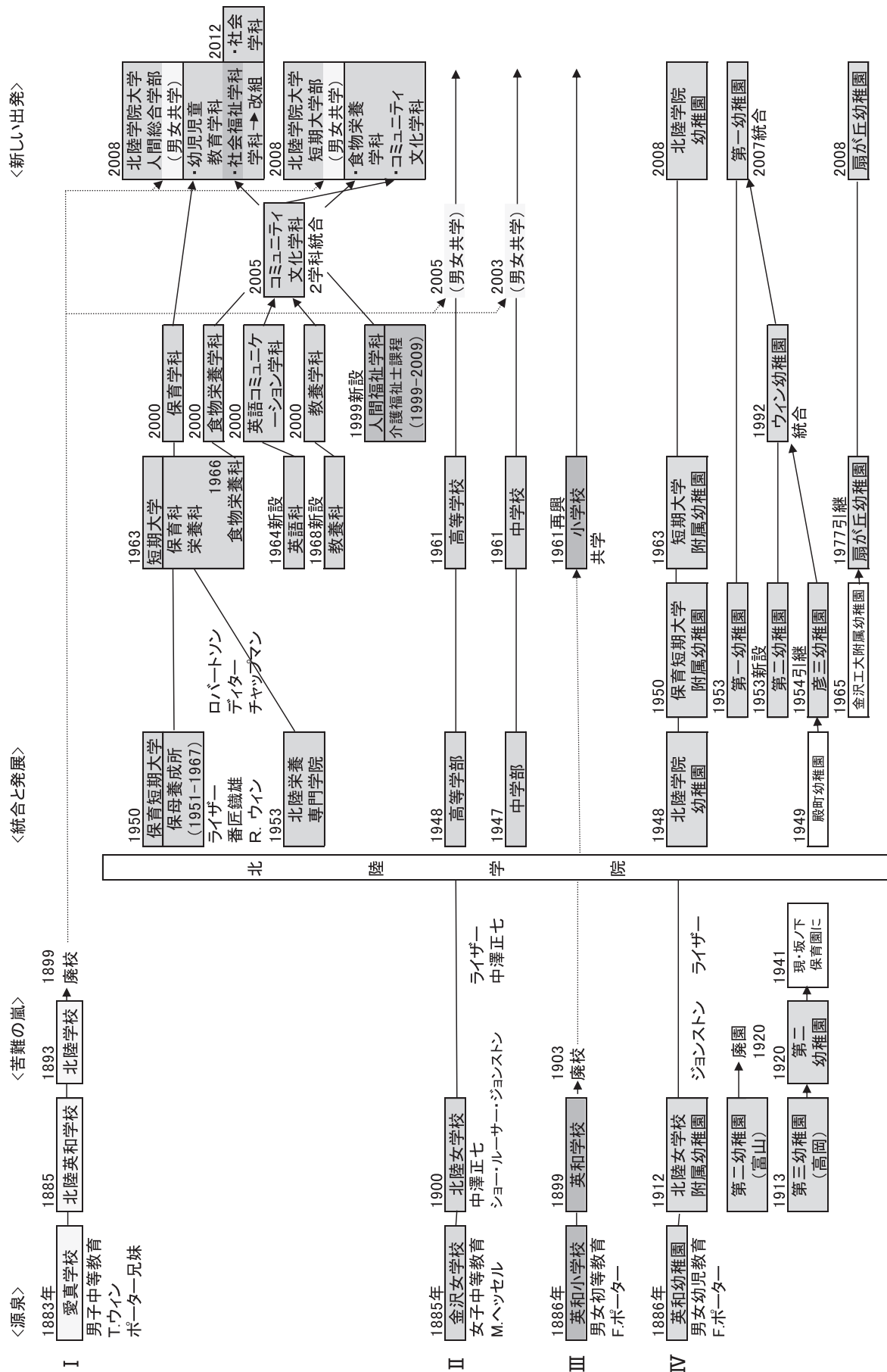


表2 介護福祉教育関連年表

年度	本学介護教育の歩み			県内他校設置状況	社会情勢・国の施策等	本学の教育関連事業
1987(S62年)					社会福祉士及び介護福祉士法成立	
1990(H2年)				金沢福祉専門学校(80×2年)		
大隅恵子学長時代(1998～2004)						
1997(H9年)	人間福祉学科設置準備室					国際交流センター完成
1998(H10年)	12月、文部科学省・厚生労働省より設置認可			金城短期大学専攻科(40×1年)		
1999(H11年)	人間福祉学科開設(80×2年)	入学者	卒業者			人間福祉学科棟完成
1999(H11年)	1期生入学	70	—			
2000(H12年)	2期生入学・1期生卒業	89	64	金城大学社会福祉学科(80×4年)	介護保険法施行	北陸学院短期大学50周年記念行事
2001(H13年)	3期生入学・2期生卒業	77	77			介護技術国家試験会場提供(試験委員・モデル他)
2002(H14年)	4期生入学・3期生卒業	73	65			同上
2003(H15年)	5期生入学・4期生卒業	60	69			同上
野坂一江学長時代(2004～2006)						
2004(H16年)	6期生入学・5期生卒業	43	49		介護技術講習会制度発足	同上
2005(H17年)	7期生入学・6期生卒業	47	41		各校で介護技術講習会実施	介護技術講習会実施
三浦正学長時代(2006～2012)						
2006(H18年)	8期生入学・7期生卒業	33	38	専門学校アリス学園(40×2年)	介護保険法大幅改正	介護技術講習会実施
2007(H19年)	9期生入学・8期生卒業、男女共学、社会福祉士指定科目設定	45	27		資格取得方法、教育課程大改正、国試義務付け	介護技術講習会実施
2008(H20年)	人間福祉学科卒業生468名		— 38			介護技術講習会実施
2008(H20年)	北陸学院大学人間総合学部社会福祉学科人間福祉コース開設(40×4年) 1期生入学	7	—			大学開学記念連続公開セミナー開催
2009(H21年)	2期生・編入学生12名入学	6	—		新カリキュラム施行、国試義務付け、介護福祉士修学資金貸与	介護技術講習会、介護職員研修
2010(H22年)	3期生入学・0期生12名卒業	6	—			125周年記念事業、介護技術講習会、介護職員研修
2011(H23年)	4期生入学・1期生卒業	13	6		民主党政権となり、国試義務付け3年延期	介護技術講習会、介護職員研修
2012(H24年)	人間福祉コース募集停止、社会学科に改組、2期生卒業		5	国際医療福祉専門七尾校(40×2年)	介護福祉法改正、痰の吸引、経管栄養対応措置	介護技術国家試験会場提供(試験委員・モデル)
ロバート・カニンガム学長時代(2012～2014)						
2013(H25年)	3期生卒業		5		自民党政権となり、国試義務付け再度1年延期	介護技術国家試験会場提供(試験委員・モデル)
2014(H26年)	4期生卒業		10	大原学園金沢校(25×2年)	再度国家試験の義務付けが当分の間延期決定	介護技術国家試験会場提供(試験委員・モデル)
2015年3月	社会福祉学科閉鎖					介護技術国家試験会場提供(試験委員・モデル)

する実習施設は(表4)に示す通り、特別養護老人ホーム13か所、老人保健施設8か所、重症心身障害児施設2か所、救護施設2か所となっている。

2. 第1期生の入学～卒業後の動向

1999年4月、1期生70名が入学し、5月には、1泊のフレッシュマンセミナー、前期の学内授業が終了し、初めての介護実習に出る前の7月、実習衣に身を整え決意式が挙行された。

2000年より、介護保険が導入されたが、当時、県内介護保険の各種委員会の要職を担っていた千葉学科長に出演依頼があり、テレビ朝日の特集番組「介護保険2000」が組まれた。

その内容は、介護保険の要となるマンパワー確保のために県内初の短大での介護福祉教育が開始され、期待されること、1期生の介護の実習風景や実習生3人の抱負などが語られるとともに、学内の演習風景も丁寧に紹介された。ま

た、保育士であり子育てをしながら社会人入学した村井久仁子に焦点をあてた学生生活の紹介等、30分番組2本が放映されている。この時作成の実習風景中心に構成されたVTRは、その後、学生の介護実習前のオリエンテーション教材として何度も活用させてもらっている。

11月にはグッドサマリタンセミナー（一泊の修養会）が行われ、2年次には、介護実習の学びをまとめた実習事例報告会、ゼミ活動の集大成としての卒業研究発表会が行われた。

2001年3月文化ホールに於いて卒業式が行われ、卒業生64名を代表し、玉川雅子に卒業証書が授与された。卒後の進路は、2名が関西国際大学に編入学し、富山、福井の地元の福祉施設に就職した4名、大阪へ1名、55名が石川県内の福祉施設・病院等に介護福祉士として就職、家事従事が2名となっている。現在もその多くが介護福祉士として活躍し、後輩の実習指導にも当たっており、ケアマネージャー取得者も最も多いと推測している。1期生の丹尾有希子（旧姓葛葉）は、2003年より本学の助手として2013年まで勤務され、学生の信頼が極めて厚いお姉さんの存在で活躍された。また、細口裕美、徳田倫子の両氏は本学の非常勤講師を務められた。また、大学編入の2名は卒後、社会福祉士国家試験に合格し、現在、坂下英里は県内の介護老人保健施設の相談員として活躍している。また、優秀な成績で卒業の清水泰代は、放送大学卒業後大学院の修士課程を出て県外大学の教員をしているとの便りが来ている。これは、1期生の極一部の紹介であるが、どの学生もそれぞれ個性的であり優秀で楽しい学生達ばかりだったと印象深く記憶している。



介護技術の演習風景

3. 第2期生の入学～卒業後の動向

2000年4月、2期生89名が入学し、2003年3月77名が卒業した。学校行事等については、1期生で記述したので、以後省略するが、9期生まで、毎年同様に実施されている。

卒業後の進路は、中部学院大学に編入学し、社会福祉士取得、県内の介護老人保健施設の相談員となった加茂史子、専門学校へ進学2名、富山県の福祉施設へ5名、福井・新潟の施設へ各1名、県内就職70名、内訳は浅ノ川総合病院6名、あたかの郷5名、仁智会4名、金沢湖南苑3名、ふくみ苑3名、千木町ケアセンター3名、福寿園3名、百寿苑2名、眉丈会3名、徳充会3名、サンビュー金沢2名、南陽苑2名、あがたの里2名、ことぶき園2名、ピカソ、ふなん苑、今浜苑、やすらぎホーム、寿晃園、陽風苑、第2朱鷺の苑、第2長寿苑各1名、根上総合病院、有松中央病院（事務）、映寿会病院（相談員）、内灘温泉病院、円山病院、内灘温泉保養館各1名となっており、介護職以外の就職は、北陸銀行、JA能登わかば、三和児童館、妙立寺、金沢市役所等となっている。

2期生は唯一、入学定員超となった学年であるが、この年度から、入試に自己推薦制をとり入れたことや千葉学科長が先頭に立ち各教員が県内の高校訪問を精力的に行い学生確保に務めたことが大きいと思われる。2期生の谷内香奈子は、卒業研究で取り上げた「孤独死」が注目され、取材により中日新聞に掲載された。また卒業後は百寿苑に就職し、在宅介護支援センターの相談員として勤務しつつ社会福祉士も取得し活躍されている。また、後年、決意式の記念講演講師として依頼している。もう一人特記したいのは、決意式の時、皆を代表して誓詞を述べた故柴山陽子のことである。彼女は、高校時代より卓球の選手として活躍する文武両道のさわやかな学生であったが、2年生の7月頃、腹部腫瘍を発症し、2か月余りの必死の闘病むなしく帰らぬ人となった。9月に行われる「最期の実習に間に合うように手術頑張ります。」と健気に言って入院された姿が今も目に浮かぶ。お別れにあたり、最後の実習中であったクラスメイトの殆どが通夜に弔問し、葬儀には実習の

早退を願い出て参列した。通夜の弔問時、彼女は成人式のためにご両親が調べられた、しつけ糸をとったばかりの加賀友禅の振袖を着て安らかに永眠されていた。また、後日、挨拶に来校されたお父様より、「後期の授業料納入を見込んで準備した資金です。後輩たちの教育環境整備にお使い下さい。」と学校に100万円のご寄附を頂いたことを感謝し、ここに付記する。



2期生決意式



新聞掲載記事

4. 第3期生の入学～卒業後の動向

2001年4月、3期生77名が入学し、2003年3月65名が卒業した。5学科の卒業生を代表して福永麻紀が答辞を述べた。卒業後の進路では、当時、急速なグループホーム（GH）新設が

盛んであった。以下（GH）と略す。目立った就職先としてGHのイエローガーデン（株）に7名、（GH）杜の郷1名、在宅支援施設として、全労済在宅介護支援センター、ケアサポート金沢、JAきららデイサービス、JA能登わかば、リビングデイサービス、山代デイサービスセンター等への就職が特徴的である。病院では、浅ノ川総合病院4名、金沢リハビリテーション病院2名、寺井病院2名、千木病院2名、城北病院、映寿会病院、柳田温泉病院、各1名が就職した。福祉施設では、陽風園4名、松美苑2名、南陽園2名、春日ケアセンター4名、金沢南ケアセンター2名、ことぶき園2名、あたかの郷2名、戸室和楽ホーム2名、やすらぎホーム、福寿園、夕陽ヶ丘苑、大門園、湯寿園、加賀慈妙院、なでしこの丘、老健ホームいしかわ、千代野苑、かすかみ会、加賀のぞみ苑、青山彩光苑、今浜苑に各1名が就職した。県外勢では、富山県の雨晴苑、アルカディア雨晴、シルバーケア城南、にしの会、ほのぼの苑へ各1名が就職し、福井の敦賀温泉病院へ1名、神奈川のラ・クラルテへ1名がそれぞれ帰省就職した。また介護職以外の就職は、コマツ石川（株）、レアル（株）となっている。本学の実習施設である福寿園の川辺香代子、松美苑の福永真紀、湯寿園の作元あゆみ、春日町ケアセンターの能村仁恵、金沢南ケアセンターの島田亜衣加、なでしこの丘の坂本純子等は、後輩の実習指導に貢献されている。また、社会人入学の林美岐は、皆のお姉さん役として頼りにされクラスの良い雰囲気づくりに貢献されている。

5. 第4期生の入学～卒業後の動向

2002年4月、4期生73名が入学し、2004年3月69名が卒業した。卒業生代表の林鮎美に卒業証書が授与された。卒業後の進路は、同年新設の福祉系施設から新戦力として期待され、いずみ福祉会5名、あじさいの郷に3名が就職した。県内の既存施設へは陽風園2名、眉丈会2名、福寿会2名、湯寿園2名、萬生園2名、サンビュー金沢2名、春日町ケアセンター2名、金沢朱鷺の苑2名、やすらぎホーム、なでしこの丘、篤豊会、なごみ苑、千寿苑、

寿晃園、青山彩光苑、鹿寿苑、長寿会、四恩会、つるべ荘、あたかの郷、ハートフル押水へ各1名が就職した。病院には、浅ノ川総合病院4名、城北病院5名、岡部病院1名、小池病院1名が就職した。富山県には6名、福寿会、あかり苑、こぶしの庭、太陽園、ゆうゆうハウス、太陽園に各1名就職し、福井県には、新田塚ハウス、五岳園に各1名就職した。介護職以外の就職は、穴水町役場、ケアサポート金沢等となっている。本学の実習施設のサンビュー金沢に就職した金崎由佳、水濤幸英、やすらぎホームの堂下優美、春日町ケアセンターの野村理恵、福寿園の金谷久乃は実習指導者として適切な対応をされ学生達のあこがれの先輩として現在も活躍されている。

教職員体制では、2003年3月千葉学科長が東京の目白大学に転出され、富岡和久教授が学科長代理に就任した。2003年3月、国光登志子教授が退任され、新たに専任教員として秋山祐子、側垣順子、吉藤郁の3名が着任している。

6. 第5期生の入学～卒業後の動向

2003年4月、5期生60名が入学し、2005年3月49名が卒業した。卒業生代表の井上泉に卒業証書が授与された。卒業後の進路は、金城大学に編入学1名、金沢看護専門学校進学1名となっており、県内施設として、福寿園4名、千木園3名、サンビュー金沢3名、松美苑2名、ケアハウス剣崎2名、金沢ふくみ苑2名、陽風園2名、ポニユール根上苑2名、加賀中央メデイケアホーム2名、鹿寿苑、夕陽ヶ丘苑、萬生苑、仁智会、大門園、三杉の郷、湯寿園、さくら会へ各1名が就職した。病院では、浅ノ川総合病院7名、城北病院1名、金沢西病院1名、能美市立病院1名が就職した。富山県勢4名は、福寿会、アルカディア氷見、有磯苑、野村藤園苑に就職し、福井県は、五岳園へ1名が就職した。介護職以外の就職は、医療事務1名、ワークスタジオ藍へ1名となっている。本学の実習施設である福寿園の荒谷佳代子、塩村貴恵、湯寿園の船津真希、サンビュー金沢の井上泉、北村絵理、陽風園の高木敦美等が本学の先輩とし

て現在も後輩の実習指導に貢献されている。

Ⅲ. 野坂一江学長時代(2004～2006)

1. 第6期生の入学～卒業後の動向

2004年4月、6期生43名が入学し、2006年3月41名が卒業した。卒業生代表の木戸沙也香に卒業証書が授与された。卒業後の進路として、厚生連高岡看護専門学校へ進学1名、県内の福祉系施設へは、福寿会3名、さくら会2名、なでしこの丘2名、サンビュー金沢2名、石川整肢学園、金沢ふくみ苑、金沢朱鷺の苑、洋和会、なごみ苑、湯寿園、ポニユール根上苑、南陽園、加賀のぞみ苑各1名となっている。病院は、浅ノ川総合病院7名、南ヶ丘病院2名、城北病院1名、能美市立病院、金沢有松病院(医療事務)1名、うらた医院(医療事務)1名が就職した。富山県勢は4名、ゆうゆうハウス、ケアサポート庄川、老健きぼう、老健なんと等の福祉施設に就職した。福井県は1名、丹南きらめきデイサービスに就職し、大阪の四天王寺福祉事業団に1名が就職した。介護職以外の就職は、化粧品会社1名、石川県庁臨職1名となっている。本学の実習施設である福寿園の藤本名穂子、竹下紫保、松美苑の白栄紗理、なでしこの丘の塚本加奈、サンビュー金沢の瀬川由梨、野村由佳、金沢ふくみ苑の西川佳苗等が、本学の先輩として現在も後輩の実習指導に貢献されている。この年度における教職員体制では、2004年4月より、由田美津子が学科長に就任し、2004年3月側垣順子が退職、道下千春が着任、相川美穂が北陸学院高校に異動となっている。

2. 第7期生の入学～卒業後の動向

2005年4月、7期生47名が入学し、2007年3月38名が卒業した。卒業生代表の松井さとみに卒業証書が授与された。卒業後の進路は、金城大学に編入学1名、看護専門学校1名であり、県内福祉系施設就職は、戸室和楽ホーム2名、金沢春日ケアセンター3名、夕陽ヶ丘苑2名、ふいらーじゅ2名、ピカソ2名、秀楽園、あつとほ一む若葉、萬生苑、石川整肢学園、ケアハウス神宮寺、サンビュー金沢、陽光苑、万陽苑、スーパービュー蓮花寺、福寿園、松寿園

に各1名就職した。病院は、浅ノ川総合病院5名、医王病院1名、映寿会みらい病院1名、済生会金沢病院1名、芳珠記念病院1名が就職した。帰省就職として富山県は1名、ふるさと敬寿苑へ、福井県は2名で障害者施設の金津さんホーム、九頭竜ワークショップに、新潟県は1名、GHの新潟ケアセンターそよ風にそれぞれ就職した。

本学の実習施設であるピカソの久保香織・江下由里子、医王病院の松井さとみ、サンビュー金沢の奥村優衣、金沢春日ケアセンターの小坂有利子・岩井万里子、福寿園の大屋安由美、戸室和楽ホームの平野佳美・崎田佑香等が本学の先輩として現在も後輩の実習指導に貢献されている。この年度における教職員体制では、2005年4月、真砂良則教授が学科長に就任した。他の教員の異動はなし。

IV. 三浦正学長時代(2006～2012)

1. 第8期生の入学～卒業後の動向

2006年4月、8期生33名が入学し、2008年3月27名が卒業した。卒業生を代表して紙谷薫生に卒業証書が授与された。卒業後の進路としては、作業療法士をめざし、県外の専門学校へ進学した納谷恵美子は、現在、金沢脳神経外科病院の作業療法士として活躍されている。県内福祉系施設就職は、眉丈会4名、湯寿園2名、やすらぎホーム、なでしこの丘、サンビュー金沢、GHおんぼら一と、さくらセンター、金沢春日ケアセンター、千寿苑、松寿園、やすはら苑に各1名が就職し、病院は、映寿会みらい病院2名、浅ノ川総合病院1名、済生会金沢病院1名が就職。富山県のケアサポート庄川2名、長野県の(特養)サルビア1名、滋賀県のコンソルテ瀬田1名、愛知県のシルバーホームに1名が就職。介護職以外は、扇商事、サンバ泉野各1名となっている。本学の実習施設、やすらぎホームの福井彩香、眉丈園の紙谷薫生・宮本麻里絵、戸室和楽ホームの山崎理恵子、サンビュー金沢の坂本知美、金沢春日ケアセンターの神谷由起子、湯寿園の田島綾香が本学の先輩として後輩の実習指導に貢献している。

教職員体制では、2007年3月、吉藤郁が大学院進学のため退職され、同年4月、富岡郁子が着任、菱田陽子が短大より異動で就任している。

2. 第9期生の入学～卒業後の動向

6期生の入学時点頃より、定員の5割しか入学生を確保できない状況が続き、その打開策として、2年間の学びの中で介護福祉士+社会福祉士の指定科目をカリキュラムの中に追加した教育課程を組むと共に、当学科が短期大学開学以来、初めて男女共学をスタートさせた。

介護福祉士+社会福祉士の指定科目を履修し、卒業後2年間の実務経験を積めば、社会福祉士国家試験が受験できる教育課程を組むことで、金城大学との違いをアピールし、入学希望者の拡大を期待する大胆な改正の仕組みが導入された。その効果が若干出た第9期生は、2007年4月45名(内男子6名)が入学し、2年次は、2008年4月開学した大学の社会福祉学科1年生とともに学び、2009年3月、人間福祉学科の最後の卒業生として38名が卒業した。

卒業生を代表し塚本麻美に卒業証書が授与された。卒業後の進路は、北陸学院大学の3年次に8名が編入学し、社会福祉士や精神保健福祉士の資格取得を目指している。在学中に介護福祉士+社会福祉士の指定科目を履修した学生は10名で、それぞれ実務経験を積める施設として、金沢子供医療福祉センター、戸室和楽ホーム、金沢五番町、ハビリポート若葉、佛子園、キッズベランダBe等に支援員として就職した。介護職としては、福寿園3名、サンビュー金沢2名、第二千木園、はくいの郷、鳳寿荘、ウェルネスかねの、自生園、ポニユール根上苑、GHおんぼら一と等に各1名就職した。病院へは、浅ノ川総合病院3名、芳珠記念病院2名、映寿会みらい病院2名、城北病院1名、浜野西病院1名が就職した。その他、小松郵便局に勤務1名、既婚者で家事従事が2名となっている。また、社会人入学の好青年で皆のお兄さんの存在としていつも一生懸命な学びを続けていた故奥村映介が、2年次の11月、突然心身の不調で他界されたことは誠に残念であり、心より哀悼

表3 人間福祉学科・社会福祉学科 年度別公開セミナー実施状況

実施年月	講師等	内容・テーマ	開催場所
1999年4月	日本社会事業大学教授 大橋謙策氏	講演「21世紀社会福祉の創造と地域福祉の進め方」	番匠鐵雄記念 礼拝堂
1999年9月	金沢市介護保険課長 佐藤伸也氏	講演「金沢市の介護保険計画を学ぶ」	第1視聴覚室
2000年9月	カルドマ哲子氏、米国実践報告	「痴呆性高齢者とグループホーム」 県内Gホーム施設長のシンポジウム	第3視聴覚室 他
2001年10月	日本老年行動科学学会長 井上勝也氏	講演「痴呆性高齢者の心とケア」	講堂
2002年10月	尼崎老人福祉会理事長 市川禮子氏・県内講師	「ユニットケアについて」講演及びユニット化 の取り組みのパネルディスカッション	番匠鐵雄記念 礼拝堂
2003年9月	アザレアンさなだ宮島渡氏、こぶし園 小山剛氏	「高齢者が地域で暮らし続けるために」 シンポジウム「地域分散型サテライト方式」	石川県女性セ ンター
2004年10月	女優 石井めぐみ氏 他本学卒業生3名	講演「やさしい街、優しい人」 本学卒業生3名の実践報告	石川県女性セ ンター
2005年10月	日本老年行動科学学会長 佐藤真一氏他	講演「認知症高齢者を支える」 実践報告	石川県女性セ ンター
2006年10月	寿町医師 佐藤照子氏 他シン ポジスト3名	講演「尊厳ある暮らしを支えるために」 シンポジウム	石川県女性セ ンター
2007年9月 ～2008年	大学開学記念連続公開 講座(社会福祉学科関係)	メインテーマ「いのちの重さと輝き」	
2007年10月	本学教授早瀬圭一	「末期がんの女医・小倉恒子限りある命を生きる」	栄光館
2007年11月	本学教授丸山久美子	講演「対象喪失と裳の仕事」千の風になって歌う	県広坂庁舎
2007年12月	本学教授吉井光信	講演「高齢社会とうつ病」	県広坂庁舎
2008年1月	本学教授松倉達夫	講演「公益法人会計は役にたって面白い」	県広坂庁舎
2008年11月	本学教授岸川洋治	講演「支え合いのコミュニティ形成を目指して」	中小企業会館
2012年11月	本学教授吉井光信	講演「認知症の理解と対応」	第3視聴覚室
2014年9月	式場病院院長吉井光信氏	講演「職場におけるメンタルヘルスケア」	第3視聴覚室

表4 介護実習施設依頼状況(福)

1999年4月

施設名および 施設種別	氏名(法人にあっては名称)	設置年月日	位置	入所定員	実習指導者
特別養護老人ホーム					
第二万陽苑	(福) 陽風園	昭和60. 7. 1	金沢市大桑町	150	末田佐智子
第三万陽苑	(福) 陽風園	平成5. 7. 1	金沢市三小牛町	150	松本俊枝
万陽苑	(福) 陽風園	昭和40. 1. 1	金沢市三口新町	190	西 孝子
石川県八田ホーム	(福) 石川県社会福祉事業団	昭和61. 10. 1	金沢市八田東	80	高田珠恵
寿晃園	(福) 中央福祉会	昭和55. 10. 29	金沢市南新保町	50	河村文江
やすらぎホーム	(福) やすらぎ福祉会	平成5. 6. 30	金沢市上荒屋	50	藤田美由紀
金沢愛の園	(福) 西鳳会	昭和61. 9. 12	金沢市湊2丁目	50	磯貝サエ子
金沢朱鷺の苑	(福) 北伸福祉会	平成6. 7. 5	金沢市岸川町	100	北崎洋子
福寿園	(福) 福寿会	昭和58. 4. 1	松任市山島台4丁目	100	端 久美
ことぶき園	(福) 芙蓉会	昭和56. 4. 1	河北郡高松町字二ツ屋	80	泉谷恵子
湯寿園	(福) 湯寿会	平成2. 8. 23	能美郡寺井町字湯谷	85	田畑さち子
眉丈園	(福) 眉丈会	昭和57. 5. 25	羽咋市の場町稲荷山	120	中越千紗子
大門園	(福) 手取会	平成3. 9. 5	石川郡吉野谷村字佐良口	80	田辺曉美
老人保健施設					
あっぷる	(医) 積仁会	平成4. 12. 25	金沢市長坂町	100	太田桃代
ピカソ	(医) 十全会	平成8. 6. 28	金沢市田上本町	100	山岸千恵子
なでしこの丘	(医社) 扇寿会	平成4. 4. 27	金沢市馬替2丁目	100	内澤洋子
春日町ケアセンター	(医社) 仁智会	昭和63. 5. 9	金沢市春日町	240	猪谷昌樹
福久ケアセンター	(医社) 福久会	平成7. 1. 24	金沢市福久町	50	大窪智子
太陽の里	(医社) 映寿会	平成2. 4. 20	金沢市南新保町	100	山本憲一
県立老健ホームいしかわ	(福) 石川県社会福祉事業団	平成5. 12. 3	金沢市忠縄町	100	上野純子
金沢南ケアセンター	(医社) 仁智会	平成7. 5. 9	野々市町蓮花寺町	100	宮村靖司
重症心身障害児施設					
国立療養所医王病院	国	昭和13. 11. 1	金沢市岩出町	80	井沢すみ子
国立療養所石川病院	国	昭和14. 2. 28	加賀市手塚町	40	田口喜美子
救護施設					
三陽ホーム	(福) 陽風園	昭和29. 11. 1	金沢市三口新町	100	安達久理子
第二常盤苑	(福) 金沢市民生協会	昭和6. 2. 6	金沢市鈴見台	150	松本美知子

の意を表する。

本学の実習施設であるサンビュー金沢の岩本千穂・河野真衣、戸室和楽ホームの塚本麻美、福寿園の福岡麻子・牧充紗・川本真代等が本学の先輩として後輩の実習指導に貢献されている。また、卒後就職先病院の手術室に配属された坂尻龍誠は、一念発起し臨床工学技士取得のため専門学校に進学し、現在臨床工学技士として活躍している。

人間福祉学科は9期生の卒業をもって、閉じることとなったが、1期生～9期生までの卒業生は合計468名であり、その殆どの方が介護福祉士として就職され、簡単に辞めることなく福祉や医療現場において、結婚や子育てをしながらも元気に活躍されている。卒業後に折に触れ来校される多くの卒業生からそれらの近況報告が聞ける幸せを感じている。

V. 北陸学院大学人間総合学部社会福祉学科開学 三浦正学長時代(2008～2012)

1. 文部科学省の大学設置認可伝達式

2007年12月3日、かねてより設置準備を進めていた「北陸学院大学」が文部科学省より認可され、同省において、設置認可の交付式が行われた。三浦正学長、村田哲郎事務局長、富岡和久教務部長が認可書を受領した。新設「北陸学院大学」は、専門分野で活躍する充実した教授陣を迎え、男女共学の人間総合学部(幼児児童教育学科定員100名、社会福祉学科定員80名)として2008年4月よりスタートした。

2. 厚生労働省の介護福祉士養成施設の設置認可

2007年4月、楠本史郎が北陸学院理事長に就任し、学院長を兼務することとなった。また、文部科学省の設置準備と並行して進めていた厚生労働省への介護福祉士養成施設の設置申請は、2007年12月、文部科学省の設置承認を受けて、厚生労働省より設置認可が下りた。

北陸学院大学人間総合学部社会福祉学科の(人間福祉コース定員40名)が介護福祉士養成課程として認可され、介護福祉士+社会福祉士の受験資格取得が可能なコースとして発足した。また、福祉心理コース(定員40名)では、社会福

祉士・精神保健福祉士・認定心理士・スクールソーシャルワーカー等の資格を目指すことが可能なコースとしてスタートした。

3. 北陸学院創立125周年連続公開講座の開催

2008年4月の大学開学と北陸学院創立125周年記念に先駆け、2007年9月より、社会福祉学科新任教授陣として着任予定の早瀬圭一氏等の紹介を兼ねた公開講座が(表3)のとおり開催された。

4. 北陸学院大学第1回入学式挙行

2008年4月2日、北陸学院大学第1回入学式が番匠鐵雄記念礼拝堂において行われ、幼児児童教育学科73名、社会福祉学科27名の入学が許可された。

開学時の、社会福祉学科の教員体制は、学科長に真砂良則教授が就任し、新任教授陣として早瀬圭一、丸山久美子、松倉達夫、吉井光信、岸川洋治、大井英子、木島恒一、竹原利栄、田引俊和、西村洋一の各氏が着任された。当短期大学より異動の教員は、富岡和久、小林正史、由田美津子、義本純子、富岡郁子の各氏と、助手に丹尾有希子が任命された。また、同年3月瀬戸佳子が事務局教務係に異動となり、実習準備室は丹尾有希子1人体制となった。

5. 第1期生の入学～卒業後の動向

2008年4月、社会福祉学科に入学した27名の内、人間福祉コースを選択した学生は7名であり、2012年3月、6名が介護福祉士と社会福祉士の受験資格を得て卒業した。そのうち2名が社会福祉士資格を取得した。卒業後の進路は、県内のサンビュー金沢、デイサービス手まり、サンケア赤土、福井県のガーデンハイツ春江、富山県の砺波福祉会にそれぞれ介護福祉士として勤務し、元気に活躍されている。なお、2010年4月、3年次に編入学し、福祉心理コースにおいて心理学や社会福祉、精神保健福祉を学んだ11名が加わり、2012年3月、33名が卒業した。学長賞を受賞した小西杏奈は、介護福祉士と社会福祉士の資格を取得し、現在、サンビュー金沢にて優しく憧れの介護職として、後

輩たちの実習指導に当たっている。福祉心理コースでは社会福祉士取得者5名、精神保健福祉士取得者3名となっている。

6. 編入学生(0期生)の入学～卒業後の動向

2009年4月、社会福祉学科3年次に当短期大学部より編入学生12名が入学した。内訳は(人間福祉学科8名、保育学科3名、食物栄養学科1名)である。いずれも社会福祉士や精神保健福祉士をめざし当短期大学から編入学したものであり、2年間の学業を終え、2011年3月、大学となって初の編入学生24名(社会福祉学科12名、幼児児童教育学科12名)の卒業式が番匠鐵雄記念礼拝堂において挙行された。三浦正学長より、ガウンと角帽を着用した学生一人一人に卒業証書・学位記が授与された。卒業後は、福祉の現場で介護職として働く者、社会福祉士や精神保健福祉士の資格を取得し、施設の相談員や支援員として活躍されるなど多彩である。



0期生の卒業式

7. 第1期生卒業時点の社会学科への改組と社会福祉学科募集停止

大学化にあたり、人間福祉コースでは、(介護福祉士+社会福祉士受験資格)、福祉心理コースでは、社会福祉士・精神保健福祉士・認定心理士・スクールソーシャルワーカー等の資格取得が目指せるコース設定と学生確保のPRに努めたが、両コース併せて入学者が27名であった。そこで、1期生が卒業予定の2012年3月、社会学科に改組することが決まり、2012年4月、

社会福祉学科の募集停止が決定した。これにより、第1期生が卒業した2012年3月をもって、大学開学時に県外より赴任された教授陣の早瀬圭一、松倉達夫、丸山久美子、吉井光信、岸川洋治、大井英子、竹原利栄の各氏と、県内の義本純子、富岡郁子が退任されている。

8. 第2期生の入学～卒業後の動向

第2期生より、介護福祉士のカリキュラムの内容や資格取得方法が大幅に改正され、卒業後の国家試験義務付けが決定しており、数少ない福祉を目指す高卒者の殆どが2年制の専門学校や短期大学の入学を選択する状況にあった。そのような社会状況の中で2009年4月社会福祉学科に入学した30名の内、人間福祉コースを選択した学生は6名となっている。

2013年3月介護福祉士を取得し、卒業したのは5名で、内2名が介護福祉士と社会福祉士の受験資格を得て卒業した。卒業式当日、社会福祉学科及び幼児児童教育学科の卒業生を代表し、現在、社会福祉士を取得し相談員として活躍している柴田明日香が答辞を述べた。卒業後の進路で介護職は、県内の金沢南ケアセンター、五番町、石川整肢学園、八幡メジカルセンター、福岡県の社会福祉法人創生会等に、介護福祉士として元気に勤務し、後輩の実習指導にも当たっている。

福祉心理コースの卒業生の進路では、社会福祉士取得者6名、精神保健福祉士取得者4名、スクールソーシャルワーカー取得が2名、認定心理士4名となっており、病院、福祉施設の相談員、支援員としてそれぞれ活躍されている。

9. 第3期生の入学～卒業後の動向

2010年4月、社会福祉学科に入学した31名の内、人間福祉コースを選択した学生は6名である。2014年3月介護福祉士を取得し、卒業したのは5名で、内4名が介護福祉士と社会福祉士の受験資格を得て卒業した。2名が社会福祉士資格を取得している。卒業後5名の進路は、県内の美杉の郷、福寿園、サンビュー金沢、富山県の(福)三福に介護職として、また、一般職でホテル業界へ1名が就職した。サンビュー金沢に介護職として就職の砂濱小

百合は、入職半年で相談員に抜擢され活躍している。福祉心理コースの卒業生の進路では、社会福祉士取得者6名、精神保健福祉士取得者3名、スクールソーシャルワーカー取得が2名、認定心理士2名となっており、病院、福祉施設の相談員、支援員としてそれぞれ活躍されている。また、社会福祉学科30名の代表として金岡千咲に卒業証書が授与された。学長賞受賞の澤田有香は、精神保健福祉士として、石川県職員に採用され、石川県こころの健康センターの相談員として活躍されている。

教職員体制では、2003年より実習準備室を執務室にして活躍の助手丹尾有希子が、一身上の都合により2013年7月退職された。彼女は介護技術演習、介護実習の巡回指導に当たるとともに、事務全般と学生のあらゆる相談役として、学科の要の役割を担っていた。そこで同年8月急遽、介護教員の資格を持ち、上記の役割が期待される村上貴子が着任し、実習準備室において、社会福祉学科と社会学科の要として各種行事の準備及び事務全般並びに介護実習指導と学生相談に当たっている。



社会福祉学科2期生の卒業式

10. 第4期生の入学～卒業後の動向

2011年4月、社会福祉学科に入学した37名の内、人間福祉コースを選択した学生は13名である。2015年3月介護福祉士を取得し、卒業見込みの学生は10名であり、内7名が介護福祉士と社会福祉士の受験資格を得て卒業の予定である。現在殆どが就職内定しており、県内では、介護職として金沢春日ケアセンター、サンビュー金沢、福寿園、相談員として薫仙会、

介護職として福井県の双和会、富山県のアルペン会、東京都の伊奈平苑等となっている。

福祉心理コースの18名の学生の進路では、社会福祉士15名、精神保健福祉士9名が資格取得を目指しており、また、スクールソーシャルワーカー希望の3名は11月の学院高校での実習に備えている。その他、認定心理士2名、図書館司書を目指す1名が卒業時に資格取得見込みである。

卒業後は、病院、福祉施設の相談員、支援員等として福祉分野の就職予定であり、2015年3月社会福祉学科最期の卒業生として、巣立つのは28名となっている。

社会福祉学科閉鎖の最終学年として、夏季休暇中も実習や就職活動に励み、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験対策や専門ゼミレポートのまとめに懸命に取り組んでいる。教職員体制では、2015年3月、社会福祉学科閉鎖をもって由田美津子、村上貴子が退任となる。

VI. 本学の介護福祉教育関連事業

1. 介護技術国家試験会場の提供及び試験委員・モデルの任命を受け参加

開学当時、県の介護保険審査会等の要職を務められた千葉学科長に依頼があり、2001年より、本学が介護技術国家試験の会場となることが決定した。これは、介護の実務経験3年を経て筆記試験に合格した者が対象となる実技試験である。本学は、北陸3県と新潟県の受験者等を受け入れる唯一の受験会場であり、午前と午後で1300人規模の受験者が来場した。毎回、3月の第1日曜日が試験日となったが、前日の試験会場準備用務と併せ、2日間全館貸切になるとともに、介護学生の殆どが、実技試験のモデルや、受験生の案内係などを試験センターより依頼され、これを務めた。また、介護系の教員は、試験委員として任命され参加した。この国家試験会場提供は、2001年～2007年まで継続されたが、2008年より会場が金城大学に移行した。その後受験者の増加傾向もあり、2012年より本学と金城大学の2会場での実施となっており、2015年3月の会場提供をもって終了する。

国家試験のモデル経験は、学生達にとって養

成校を経ずに自学自習で資格をとる人の真剣な様子と困難さの瞬間に立ち会うことで、得るものがとても大きいと述べている。

2. 介護技術講習会の実施

2000年の介護保険法の施行により、福祉系施設の開設が相次ぎ、介護職員が多数必要となる中、実務経験で資格取得を目指す人の増大と筆記試験に合格しても、半数が実技試験に不合格となる多くの受験者の救済策として、国は2004年、介護技術国家試験に代わる介護技術講習会制度を導入した。これは、介護福祉士養成施設が実施の許可申請を厚労省に提出し、実施する講習会である。そのため、国は2004年度に急遽、講習会使用テキストの作成・講師となる主任指導者の養成等を行った。2005年度より、各養成校で、受験者を募り、介護技術講習会が実施されている。本学においても、2005年度より、2011年度まで毎年、事務職員の協力を得て開催した。1回の研修日程は、32時間、4日間の教育内容であり、受講料1人6万円の設定である。希望者が多く、電話受付開始日は事務所の電話が鳴りっぱなしという状態となり、多くの受講生の参加がみられた。

講習会は授業に支障のない土・日や夏季休暇中に開催予定を組み実施した。各年度の開催内容は次のとおりである。2005年度・2006年度(40人×4回)、2007年度・2008年度(32人×4回)、2009年度(32人×2回)、2010年度(32人×1回)開催となっている。また、各講習会の最終日の午後に、国家試験と同様に5分間で実施する実技の評価試験のモデルとして、毎回介護学生の協力を得て実施できたことをここに付記する。

3. 卒業生の就職先訪問とホームカミングデイの開催

(1) 卒業生の就職先訪問

人間福祉学科開設当時の介護福祉士の就職先は現今のように多様・多数ではなく、新設の学校のPRと出口開拓について千葉学科長が先頭に立ち行った。それもあり、卒業生の殆どが第

1希望の施設に就職することができた。そこで、次年度につなげる為に、卒業後の5～6月にかけて、教員が分担し就職先の挨拶回りと卒業生の近況確認のため訪問している。

この施設訪問は1期生～9期生の卒業まで毎年継続された。

(2) ホームカミングデイの開催

人間福祉学科1期生が卒業した2001年8月、本学の演習室にて、第1回のホームカミングデイが実施された。これは、同窓会を学校側が主催する形で行い、卒業生が懐かしの学び舎に集い近況報告や懇談をする会として設けた。このホームカミングデイも、1期生～9期生まで毎年開催されている。

第2回～第4回までは1期生～4期生並びに退職教員にも開催通知を出し、学内の101教室等で、ミニ講演会・懇談会形式で行い参加費なしで開催した。5回目以降は、卒業生が増えるに従い、会場をホテルやフュージョン21等を使用し、県外大学に転出された千葉茂明氏や国光登志子氏の講演と懇談会の内容で開催し、食事付となったため会費制として9期生まで開催している。このホームカミングデイの開催がきっかけになったのか、卒業後に学校を折に触れ訪れる卒業生の多いことを、心から喜んでいる。

1期生卒業時よりメモしている卒業生の来校記録をみると、職場の近況報告や転職相談、クラスメイトの結婚・出産の状況などが記されており、気軽に友を誘って、卒業生が多数母校を訪れている。

VII. 閉校に至る関連要因の検討

1. 介護福祉士養成施設の状況

(1) 県内の他校設置状況

1999年人間福祉学科開設時は、1990年開設の金沢福祉専門学校(40×2年)、1998年開設の金城短期大学専攻科(保育士×1年)のみで、福祉を目指す学生確保の目途は十分あった。しかし、2000年金城大学社会福祉学部(80×4年)が開設され、4期生までは70名程度学生確保ができたが、6期生入学当時より定員の半数確保が困難な状況となった。

その後2006年専門学校アリス学園(40×2

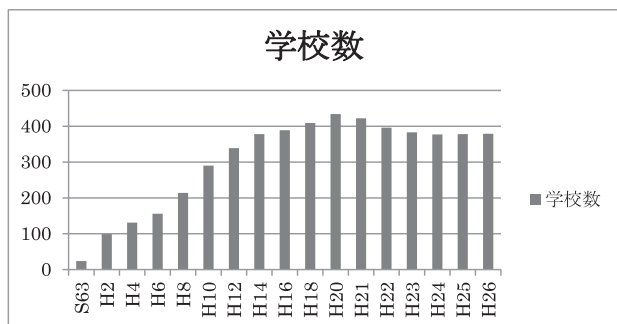


図1 全国介護福祉士養成施設の年次推移
＜日本介護福祉士養成施設協会資料より作成＞

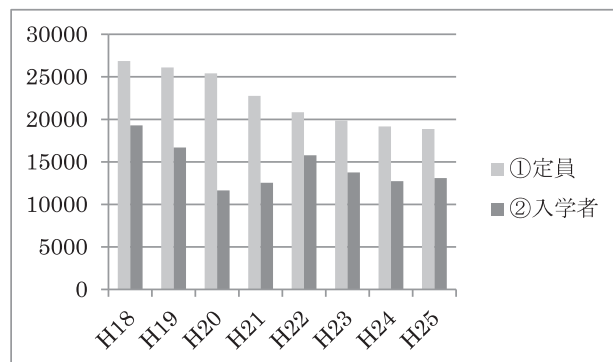


図2 介護福祉士養成施設の定員充足率の推移
＜介護福祉士養成施設協会資料より作成＞

年)、2012年国際医療福祉専門学校七尾校(40×2年)が開設されたが、2校ともに当初の入学生は、10名未満となっている。当時、全国の養成校の入学定員充足率が2007年には45.8%となり、募集停止や閉校が相次いだ。2009年、介護職員確保対策の一環として導入された離職者訓練制度の活用もあり、定員の充足をみたのは、金沢福祉専門学校と専門学校アリス学園である。この離職者訓練制度とは、ハローワークより委託された失業者に国が学費をもち、介護福祉士養成施設で学ばせる制度である。この制度が活用できるのは、2年課程の養成施設のみで、4年課程・1年課程は対象とはなかった。この時期、両校とも、離職者訓練生受け入れのために定員増を図っている。

(2) 全国の介護福祉士養成校数の推移

社会福祉士及び介護福祉士法成立の翌年1988年、介護福祉士養成校数は全国でわずか24校であったが2008年代400校超に急増した。しかし、2008年度の434校をピークに減少し始め2013年には、378校となっている。少子化の進展で受験生の母集団が縮小していることと、

介護福祉士の待遇条件の悪さなどの喧伝が影響して、(図1)に示すとおり学校数及び入学定員の減少傾向が続いている。

(3) 介護福祉士養成施設の定員充足率の推移

少子化の進展で受験生の母集団が縮小している中で、福祉より看護等の医療関係職種の進学を選択する傾向もみられ、2004年頃より、介護福祉士養成校の定員充足率が下がり始めている。(図2)に示すとおり2006年には71.8%、2007年64%、2008年45.8%まで下降している。その後、2年課程校の離職者訓練生の受け入れと、2009年の介護福祉士就学資金貸与制度の導入もあり、2010年には一時的に70%まで回復したが、依然、定員充足率は低迷を続けている。

(4) 介護福祉士養成施設の学校種別割合の比較

全国の介護福祉士養成施設の学校種別割合をみると、(図3)に示すとおり、2002年では専門学校が3/4を占め68.3%、短期大学24%、大学7.0%と少数派であったが、2011年には、専門学校が60%に減少し、大学のみ17.8%に増加しており、本学が短大から大学化を図った時期と呼応している。

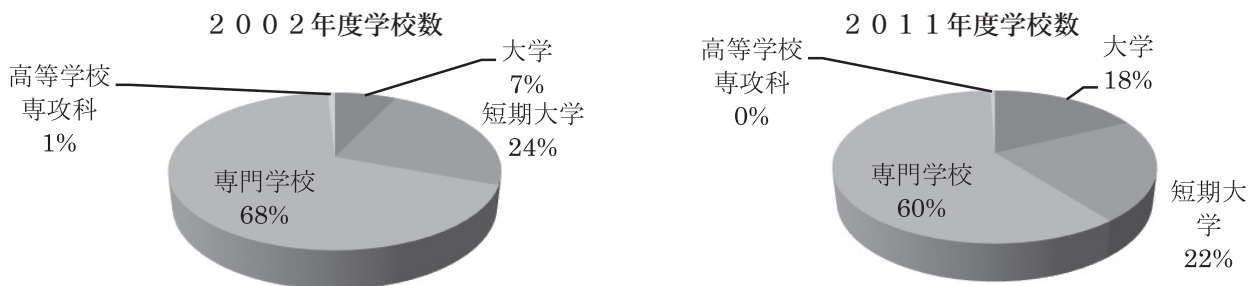


図3 介護福祉士養成施設の学校種別割合の比較 ＜介護福祉士養成施設協会資料より作成＞

2. 国の福祉・介護人材確保対策

介護保険の導入により介護需要の急激な増大とともに、介護人材の不足は全国的に深刻な状況にあった。離職者も多く、将来、福祉施設で働く者の核となる人材を養成する全国の介護福祉士養成施設の入学定員充足率は45.8%まで下落した。そこで、厚生労働省は下記のとおり平成20年度・21年度に大規模な福祉・介護人材確保対策を講じた。

- (1) 処遇改善等による定着対策として ①介護職員の処遇改善(1,154億円) ②移動リフト等の介護機器導入助成(19億円) ③介護の未経験者雇用対策(99億円)
- (2) 多様な人材の参入促進として ①介護福祉士養成施設入学者に対する修学資金貸与(320億円) ②潜在的有資格者の再就業支援(205億円) ③離職者の介護福祉士養成校への委託費(156億円) ④都道府県人材センターの求職者相談(98億円)等となっている。

3. 国の施策変更と介護福祉士関連法令改変等の推移

- (1) 1987年(S62) 社会福祉士・介護福祉士法成立 介護福祉士養成所指定規則に基づき、翌年全国で24校の介護福祉士養成所が設置される。
- (2) 2000年(H12) 介護保険法施行 要介護者の増加等介護需要の増大により、介護職員の確保が緊急課題となる。2006年介護保険法の大幅改正
- (3) 2007年(H19) 介護福祉士法・介護福祉士養成所指定規則改正
 - ①介護福祉士資格取得方法の見直し
養成施設卒業者にH25年1月より国家試験受験を義務づける。
 - ②定義規定の見直し
 - ③カリキュラムの大幅改正 内容は介護に特化し、「人間と社会」「介護」「心と体の仕組み」の3領域に再編され、時間数も1650時間⇒1800時間となった。
- (4) 2009年4月新カリキュラムによる教育開始

(2期生) 介護福祉士就学資金貸与制度

- (5) 2011年(H23) 政権交代で、国家試験義務づけが3年延期となりH27年度より実施となる。2013年(H25) 自民党政権になり、再度、国家試験義務づけが1年延期となる。
- (6) 2012年(H24) 介護福祉士が痰の吸引・経管栄養等の医療的行為が実施できるよう法改正を行うと共に、学生のカリキュラムにも医療的対応50時間の教育内容の追加を決定
- (7) 2014年(H26) 介護職員の量と質の確保見直しのためとして、国家試験義務づけが期限なし当分の間、再々延期が決定した。

VIII. まとめ

本学の介護福祉教育16年の歩みの中で、閉校に至る関連要因を合わせ考えると次の3つの転換点があったと考えている。

1. 学科開設～2004年

介護保険制度発足の前年となる1999年、良質な介護職員の養成に社会の期待が高まる中、本学短大での介護福祉士養成教育が開始された。当時は県内に専門学校1校があるのみで、福祉に光があたり始めた時期でもあり、高卒人口の減少の中でも入学生の確保は十分可能と考えられた。しかし、翌年、金城大学の開設もあり、若者の大学志向と介護職員の待遇の悪さなどがマスコミで取り上げられた事などもあり、福祉を目指す高校生が減少し、本学入学者も2004年には定員の半数確保がやっとの状況となった。当時、教員は手分けして必至で高校訪問を行ったが、進路指導教員より、「看護・医療系を目指す者はいるが、介護はいませんね」との素気無い回答をもらうことが多くなった。

2. 第9期生より導入の新たな取組(介護福祉士+社会福祉士指定科目設定)と大学への移行

第6期生入学時点より、定員充足率5割と低迷する事態の打開策として打ち出したのが、9期生入学時より、男女共学並びに2年間で(介護福祉士+社会福祉士指定科目)が取得可能なコース設定である。金城大学との違いをアピールするとともに、入学希望者の拡大を期待する

大胆な改正の仕組みが導入された。その効果が若干出た第9期生は、2007年4月45名（内男子6名）が入学した。しかし、2008年4月大学が開学、本コースは9期生のみで終了となった。以前より大学化の要望は、色々な学科から出ていて検討もされたが、実現に至らずという状況が続いていた折、電撃的とも感じられる保育学科と人間福祉学科の2学科をベースに大学化を目指す決定が下された。

当時、各学科の意見を聴取する場が設けられた折、人間福祉学科は短大に残す方がよいのではないかとの意見が少数派ながらあった。結果論であるが、あの時、人間福祉学科を定員40人として短大のまま存続していれば、高校生減に対して、その後に導入された委託生受入れも可能となり、また、2年で（介護福祉士+社会福祉士指定科目）取得可能が、4年で同様な資格取得の金城大学との違いを強調でき、入学定員40人の確保は可能だったのではと考えることがある。

3. 養成施設卒業者への国家試験受験義務づけと再三の実施時期の変更

2007年（H19）、介護福祉士養成課程のカリキュラムの大改正と、養成施設卒業者にH25年1月より国家試験受験の義務づけが発表された。

H24年3月卒業の1期生は新カリキュラム及び国家試験受験義務づけの対象とはならなかったが、H21年入学の2期生からは、新カリキュラムの施行、国家試験受験の義務づけの対象となった。一方、2年課程の専門学校・短大においては、H25年3月までの間、H22～24年入学者が国家試験受験義務づけの対象とはならない。当然、数少ない福祉希望の高校生達は、高校の進路指導や親の勧めで、4年課程を避け2年課程の養成施設の入学を選択することとなり、4年課程はいずれの大学も大きな影響を受けることとなった。

また、大学開学の申請時は、旧カリキュラムであり、教員構成もそれに対応して準備された。しかし、翌年2期生からは、新カリキュラム対象となるため、急遽カリキュラム編成を行ったが、1期生の卒業まで、申請時のカリキュラム・

教員体制の変更が原則できない中で、新たな教科の担当教員の変更申請も思うに任せず、非常勤講師の導入で対応せざるを得なかった。

介護を目指す入学生が極端に少ない中で、必要経費が増える不本意な状況となった。

H25年1月実施決定の国家試験受験義務づけは、H23年、政権交代で3年延期が決定、その後何度も実施時期の変更が公表され、全国の介護福祉養成校は、福祉を目指す高卒者の減少に加え、これら国の方針変更にも多大な影響を受け、募集停止や定員の縮小、閉校等が相次いだ。その中でも4年課程の打撃が最も大きかったと考えている。

IX. 終わりに

本学の介護福祉教育に開設当初より携わった者の責務として介護福祉教育16年の歩みを振り返り閉校に至る関連要因を踏まえまとめた。

地域社会の大きな期待もあり、本学の建学の精神に叶う有望な学科として立ち上げたはずの介護福祉教育が終焉を迎えることになる。教育担当者として、懸命に努力した積もりではあるが、社会の動きや国の施策変更にも上手く対応できず、なす術なく学科閉鎖に至ったことを卒業生や関係各位にお詫びするとともにお許しを願いたいと思う。

本稿をまとめるにあたり、楠本史郎学院長には、貴重な「北陸学院の流れ」表1をご提供頂きました。梅染信夫先生にはご助言ご指導を頂きました。また、村上貴子、大栗睦美両氏には、図表や写真の編集・記載法についてご協力頂きましたことを記し、ここに深く感謝申し上げます。

<参考文献・資料>

1. 「北陸学院短期大学50年のあゆみ」北陸学院短期大学50年のあゆみ編集委員会 北陸学院 2002年
2. 「北陸学院125年史」北陸学院125年史編集委員会 北陸学院 2010年
3. 北陸学院短期大学「現状と課題」北陸学院 1999年
4. 泉順一「福祉・介護人材確保対策と介護福祉士への期待」全国教職員研修会資料 2009年
5. 「創立20周年記念誌・介護福祉士養成のあゆみ」

(社)日本介護福祉士養成施設協会 2012年

6. 介護福祉士法の一部改正に伴う「介護福祉士養成課程の見直しについて」東海北陸厚生局説明会資料
2008年
7. 北陸学院短期大学案内 1999年～2007年、大学案内
2007年～2014年
8. 北陸学院短期大学人間福祉学科設置申請資料 1998年
9. 北陸学院大学人間総合学部社会福祉学科設置申請資料
2007年
10. 人間福祉学科・社会福祉学科卒業生来校記録
11. 北陸学院短期大学卒業アルバム1999～2009年、大学
卒業アルバム2011～2014年